

計測標準フォーラム第18回講演会 ～健康な生活を支える計量標準・計測技術～ NMIJ計量標準セミナー共催

【講演概要】

- 医療診断領域における線量管理用面積線量計の校正
高島 誠：（一財）日本品質保証機構（JQA）計量計測センター

近年、X線を用いた医療診断において照射する線量の標準化が進められており、線量測定には面積線量計を用いることが推奨されている。JQAでは国内初、面積線量計の校正を開始したので紹介する。

- 生体成分の計測が拓く健康長寿
山中 秀徳：（一財）化学物質評価研究機構（CERI）東京事業所環境技術部

近年、計測装置、技術の進展に伴い遺伝子等の網羅的解析に基づく分子標的薬の開発や個別化医療も可能になってきた。発表では各生体分子の特徴とそれらの最新計測技術がもたらす健康長寿へのインパクトを概観する。

- 安全で健康な生活を支える有機標準物質
伊藤 信靖：産業技術総合研究所 計量標準総合センター（NMIJ）
物質計測標準研究部門 有機基準物質研究グループ

医薬品やプラスチック製品など、身の回りにある有機物質によって生活が豊かになる一方で、有害なものも存在する。本講演では、規制値のある有害物質を正しく評価するために不可欠な、有機標準物質について紹介する。

- 発熱者検知用サーモグラフィの課題と信頼性向上
笹嶋 尚彦：産業技術総合研究所 計量標準総合センター（NMIJ）
物理計測標準研究部門 光温度計測研究グループ

新型コロナウイルス感染拡大により、様々な場所で発熱者検知のための非接触温度計測が行われているが、表示される温度精度が十分とは言い難い。そのため、測定対象や周囲環境の影響、サーモグラフィの特性など発熱者検知を行う上での注意点について紹介する。

- 気流制御による感染症対策のための微風速計測技術
高辻 利之：産業技術総合研究所 計量標準総合センター（NMIJ）研究戦略部

弱い気流を発生させることでウィルスの拡散を抑制する技術がある。高い効果を発揮するためには微風速の計測が重要であり、NMIJで進めている簡易型三次元微風速センサの開発と校正技術について紹介する。